令和７年度 第１回上田市総合教育会議　会議概要

１ 会　議　名	令和７年度 第１回上田市総合教育会議
２ 日　　時	令和７年５月２８日　午後２時から午後３時５０分まで
３ 会　　場	市役所本庁舎　４階　庁議室
４ 出　席　者	土屋陽一上田市長、酒井秀樹教育長、 安達永眞教育委員、木口博文教育委員、萱津公子教育委員
５ 市側出席者	大矢政策企画部長、池田教育次長ほか別紙名簿のとおり
６ 公開･非公開	公　開　・　一部公開　・　非公開
７ 傍　聴　者	１人　　記者　２人
８ 会議概要作成年月日	令和７年６月３日

協　議　事　項　等

１　開　　会（大矢政策企画部長）
２　市長あいさつ（土屋市長）
３　教育長あいさつ（酒井教育長）
４　会議事項
（１）上田市教育大綱及び上田市教育支援プランの改訂について
・資料１に沿い、政策企画課長から改訂の趣旨等について概要を説明
・以降、協議
（委　　員）　改訂の方針については賛成。
言葉の表現になるが、上田市としてひとりの子どもも取り残さないという方針もある中で、「学校教育」を「子ども教育」という表現に変えた方が、最近の情勢も鑑みると望ましいのではないか。
（事 務 局）　ご意見を参考に、変更について検討したい。
（委　　員）　教育大綱について、子どもたちの意欲を意図的に引っ張るような内容ではなく、子どもの主体性をサポートできるような内容になると良い。
誰にでも分かりやすい表現を用いてほしい。
（委　　員）　学校での教育に捉われず、上田市内の子ども全体の教育という視点が必要。
上田市の社会資源を生かす内容が盛り込まれた大綱になると良い。
（委　　員）　教育委員会だけでなく市長部局の関係部署とも横断的に考え、包括的な視点で「子ども教育」という言葉を用いて大綱を策定してほしい。
（事 務 局）　委員の皆様からのご意見を参考に、改訂を進めていきたい。

（２）上田市教育大綱の分野別施策の進捗状況について
・資料２に沿い、学校教育課長から進捗状況について概要を説明
・以降、協議
（委　　員）　資料２の１０頁で、「自分には、よいところがある」と回答した児童・生徒の割合が非常に高い。自己肯定感が高いということは素晴らしい。市の教育行政の成果だと思うので、継続していただきたい。
４頁や１４頁で、MIM や UD について、手段と目的が混同してしまう危険性がある。目的にはなり得ないので注意が必要。そのため、「MIM を活用する学級の割合」が評価指標となっているのは疑問に思う。
１２頁で、中学生の体力が伸びていることが示されており、これは部活動の働きによるものだと思う。部活動の地域展開という変化もある中で、今後も注目していきたい。
（事 務 局）　自己肯定感の部分については、大切なことと考えているため、引き続きしっかり取り組んでいきたい。
MIM について、ご意見いただいたとおり、活用の結果どのような効果に繋がったのかという視点を重視していきたい。

部活動についても、大きな変化の時期を迎えているが、子どもの不安を取り除きのびのびと活動できるように展開していきたい。

（市　　長）　自己肯定感の設問で、自分の良さを認める児童生徒の割合が高まっている。学校での具体的な取組が背景にあっての成果か。

（事 務 局）　学校の授業でも、子どもを認めたり長所を伸ばしたりといったことが日頃から実施されている。

（教 育 長）　帰りの学活の時間に、仲間のいいところをお互いに認め合うといった取組などがある。

過去の調査結果を見ると、４人に１人が自分に自信がないという状況であったが、学校での取組の結果、それが改善してきていることは良いことだと思う。

（委　　員）　学校訪問した際に、生徒の小さなつぶやきでも先生が拾い、否定せず認める姿が印象に残っている。こうした取組の積み重ねが自己肯定感を上げ、自尊感情の醸成には大事だと思う。

（委　　員）　データの捉え方として、同じ 80％という数値を見たときに、低いのでもっと数値を上げていこうと思うのか、既に高いので維持していこうと思うのかによって、次の支援策をどうしていくのかが変わってくると思う。支援策は継続していくだけでは大きな効果が期待できないので、数値を上げるとなれば大胆な施策変更も検討すべきである。

資料２の６ページ、支援策「授業と関連付けた計画的な家庭学習の充実」について、「授業と関連付けた」という言葉があると、どうしても予習・復習を家庭学習に位置付けてしまいがちである。長期的なテーマで家庭学習をする等、勉強に楽しさを感じ、主体的に計画し探求心を持って楽しく学ぶという視点も次の支援プランでは盛り込んでいただきたい。

（委　　員）　情報リテラシーの関係で、いくつか関連する支援策があるので、ひとつ独立した支援策として項目出ししても良いのではないか。

（事 務 局）　項目設置について検討したい。

（委　　員）　基本施策の「４ すべての子どもに寄り添う支援」の部分で、「市内の様々な子どもに関わる施設との連携」といった項目も入れていただきたい。フリースクールなどとの情報共有や連携を項目化していただきたい。

（事 務 局）　民間施設との連携については、市としてガイドラインも策定しており重要なことと認識しているので、項目化についても検討したい。

（委　　員）　「悩みを抱える児童生徒への支援」について、いじめや虐待が中心になってしまうが、不登校児童生徒の中にはヤングケアラーの子もいる。当事者の子どもたちは自分がヤングケアラーだと自覚していない子も多く、人に相談したりコミュニケーションをとる中で気付くことがあるため、そこに繋げる仕組みについても記載していただきたい。

体力づくり、健康づくりの部分で、部活動の地域展開が進められているが、一生懸命頑張ろうという子だけでなく、少しやってみようという子どもの活動への支援について、スポーツだけでなく文化芸術分野も含め盛り込んでいただきたい。

・資料３に沿い、政策企画課長から進捗状況について概要を説明

・以降、協議

（委　　員）　サントミューゼや博物館など、様々な施設で良い取組が多くあり、方向性は間違っていないと感じている。このまま継続していただきたい。

その中で、広報活動に課題があると思う。より広範囲の世代、地域に上田市の素晴らしい活動を広報していける仕組みを強化できると良い。

学校や子どもとの関連事業が多く実施されており、これからは地域が子どもを育てるという視点も重要だと思うので、子どもたちを巻き込んだ取組も強化していただきたい。

（教 育 長）　これまでは、子どもたちや地域の皆さんをどのように巻き込んでいくか行政がリードしてきたが、これからは、様々なニーズのある子どもや市民の皆さんたちが主体的に活動する場をどう提供していくかというところに課題があると感じている。

部活動の地域展開についても、学校教育だけではどうにもならない部分も多々あるた

め、市として子どもの思いを受け止める土台をどう作っていくかが大きな課題となってくると思う。今後とも一緒に協力・連携をお願いしたい。

5　その他

・第２回会議：令和７年１１月７日に開催予定

6　閉会（大矢政策企画部長）